

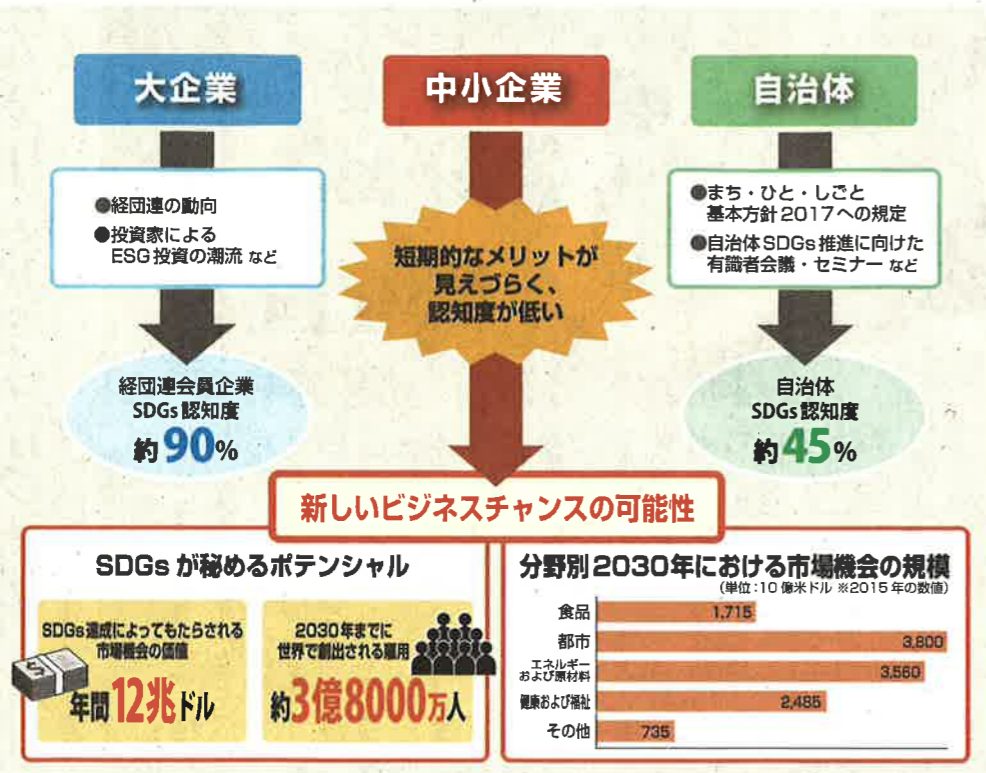
Biz Frontier

subject: **SDGsと中小企業**

「世界共通語」に商機見いだす

先行企業は競争優位に

中小企業にも新たな市場獲得のチャンスが



国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」を積極的に経営に活用する中小企業やスタートアップ企業が増えている。廃プラスチック問題の解決や省エネ住宅、自然由来の化粧品製造や自動車リ

サイクルなど取り組みも様々。中小企業のSDGsへの認知度はまだ低いが、先行して取り組む企業は、ビジネスチャンス拡大など競争優位に立つ可能性を秘めている。

石灰石からプラスチック

テーブルに並んだ食器やボールペン、スマートフォン用ケース。一見普通のプラスチック製品だが、主な原料は石灰石だ。素材開発のスタートアップ、TBM(東京・中央)が開発した新素材「LIME EX(ライメックス)」を加工している。石灰石を砕いて植物由来成分などと混合。加熱してペレット状にし、シートに加工したり袋状に成型する。紙やプラスチックの代替製品として期待を集める。

1トンの紙を製造する際、85トンの水と20本の木が必要だ。一方、ライメックスを製造するには石灰石が0.6〜0.8ト、混ぜ合わせる樹脂が0.2〜0.4トあれば済む。TBMの笹木隆之執行役員最高マーケティング責任者(CMO)は、「2050年には世界人口の約40%が深刻な水不足にさらされると指摘。だが、「ライメックス製造には水や木がほとんど不要で、資源保全に貢献できる」と話す。「原料の石灰石も国内で100%自給できる。埋蔵量も約240億トンで十分な量を確保できる」といふ。

回収した製品より価値の低い製品を生み出すリサイクル「アップサイクリング」も視野に入れる。神奈川県や福井県鯖江市などが組んで郵便局に回収箱を設置。高付加価値の再生品を作る。笹木CMOは「アップサイクリングを通じてSDGsの根幹を成すエコノミーとエコロジーの両立を目指す」と意気込む。

エネルギー消費の多い住宅を省エネ化する挑戦も進む。独自技術の高断熱住宅「FAS(ファース)の家」を全国でフランチャイズ展開する福地建設(北海道北斗市)は先頭集団を走る。

外断熱板の内側に発泡させた樹脂断熱材を吹きつけ、建物全体を覆う。隙間を無くして高い断熱性と気密性を確保、少ないエネルギーで効率的に冷暖房ができる。

ロフトにエアコンを設置。ファンを使って暖気や冷気をダクト経由で床下など家全体に循環させる。「床面積が100平方メートルの家の場合、4部屋のエアコン1台で家全体の冷暖房ができる」(福地建設社長)と話す。

エアコンを常時稼働させると電気代が気になるが、高気密断熱の効果で

電力消費を抑えながら快適な温度を保つ。ファースの家に暮らす同社の柳田貴志・事業推進本部長は「1時間当たりの消費電力は200ワ程度でほとんど気にならない」とほほ笑む。

カンボジアで植林

化粧品の分野でもSDGsへの関心が高まっている。カンボジア北部の町シエムリアップから車で約1時間の小さな村で大規模な植林作業が続く。仕掛け人は、自然由来の化粧品を手がけるフロムファーフーイスト(大阪市)の阪口竜也社長だ。

約3万3000平方メートルの土地に村人の協力で大木を植え、下草としてレモングラスなど約20種類のハーブも育てている。収穫したハーブの成分を蒸留・抽出し、化粧品の原料にする。荒地を開墾し換金作物を植えることで雇用と収入源が生まれる。貧困の解決や森林保護にもつながる。

SDGsと地域活性化を両立させる試みも始まった。石川県羽咋市では廃棄していた米ぬかに着目。農業や化学肥料を使わない自然栽培米を使う無添加の美容オイルとして販売している。

米ぬか油を抽出するには手間とコストがかかるが、1本数千円の化粧品の価格であれば吸収できる。「SDGsはビジネスでなければ続かない。利益を生む方法を常に考え続けることが大切」と阪口社長は言い切る。

SDGsは「世界共通語」だ。20年度から小学校などでSDGs教育が義務化される。SDGsが日々の生活に溶け込むなか、中小企業のビジネスチャンスもますます広がります。

中小企業のSDGs認知度

